

結核個體ノ肝臟機能變調ニ就テ 臨牀的觀察 (其ノ 5)

肺結核患者尿「ウロビリ」量ニ及ボス「ヴィタミン」B₁ノ影響

大阪市立刀根山病院(院長 太繩博士)

藤 野 保 次

(本論文ノ内容ハ第 15 回結核病學會ニ於テ發表セリ)

第一章 緒 論

余ハ曩ニ「ヴィタミン」B 複合體ノ投與ガ肺結核患者尿「ウロビリ」量ヲ減少セシムル事、從テ「ヴィタミン」B 複合體ハ肝臟ニ作用スルモノデアル事ヲ證明シタ。

近時「ヴィタミン」ノ學著シク進歩シ B₁ノ純製劑

モ容易ニ得ラルルノ域ニ達シタノデ、余ハ純「ヴィタミン」B₁ヲ用ヒテ曩ニ B 複合體ヲ以テセル實驗ヲ追試シテ B₁ノ肝臟ニ及ボス作用ヲ檢セント試ミタ。

第二章 實驗方法

尿中「ウロビリ」ノ顯著且持續的ニ證明セラルル無熱患者ヲ材料トシ、魚類肉類ノ攝取ヲ禁ジテ、尿ハ午前 8 時半ヨリ翌朝 8 時半マデ 24 時間内ニ排泄セラレタルモノヲ用ヒ、可及的の同時刻ニ測定シタ。

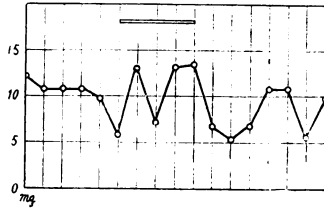
「ヴィタミン」B₁トシテハ 10 倍強力「オリザニン」

注射液(1 cc 中ニ B₁ 鹽酸鹽 0.5mg ヲ含ム)又ハ強力「メタボリン」1 號注射液(B₁ 含有量同様)ヲ以テシテ午前 10 時、午後 3 時ノ 2 度皮下ニ注射シタ。「ウロビリ」測定法ハ Pincussen 氏法ノ變法デアル佐々木氏法ヲ以テシタ。

第三章 實驗成績

第 1 表				17	1200	1020	酸性	13.08	
第 1 例 石〇タ〇 26 女				18	1300	1020	「アルカリ」性	7.07	
検査日	尿量(cc)	比重	反應	「ウロビリ」量 (單位 mg)	19	1200	1022	酸性	13.08
II 11	900	1027	「アルカリ」性	12.24	20	1000	1025	„	13.60
12	800	1026	„	10.88	「ヴィタミン」B ₁ 投與中止				
13	800	1026	酸性	10.88	21	1000	1035	「アルカリ」性	6.80
14	800	1028	「アルカリ」性	10.88	22	1000	1029	酸性	5.44
15	900	1027	„	9.81	23	1000	1023	「アルカリ」性	6.80
「ヴィタミン」B ₁ 投與開始(1日 1mg 皮下)					24	1000	1024	„	10.90
16	1100	1028	酸性	5.98	25	1000	1024	酸性	10.90
					26	800	1028	„	5.44
					27	900	1028	「アルカリ」性	9.81

第 1 圖

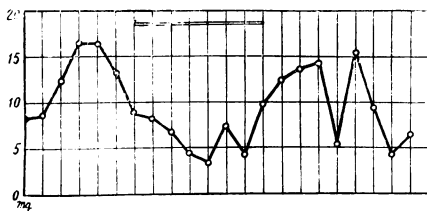


本例ニ於テハ「ビタミン」B₁ 投與ニヨリ「ウロビリ」ン量ノ動搖ヲ認メ、次デ減少ヲ來スヲ見ル。

第 2 表
第 2 例 中○千○ 35 子

検査日	尿量(cc)	比重	反應	「ウロビリ」ン量 (單位 mg)
II 3	600	1012	酸性	8.16
4	400	1024	..	8.72
5	900	1012	..	12.24
6	1200	1013	「アルカリ」性	16.32
7	600	1018	酸性	16.32
8	600	1018	..	13.08
「ビタミン」B ₁ 投與開始(1日 1mg 皮下)				
9	800	1014	酸性	8.72
10	600	1018	..	8.16
11	500	1020	..	6.80
12	800	1016	酸性	4.35
13	100	1010	..	3.40
14	680	1018	「アルカリ」性	7.41
15	600	1015	酸性	4.08
16	900	1018	..	9.81
「ビタミン」B ₁ 投與中止				
17	900	1014	酸性	12.24
18	1000	1016	..	13.60
19	1300	1014	「アルカリ」性	14.17
20	800	1019	酸性	5.44
21	700	1020	..	15.26
22	850	1014	「アルカリ」性	9.26
23	650	1015	酸性	4.42
24	1200	1015	..	6.53

第 2 圖

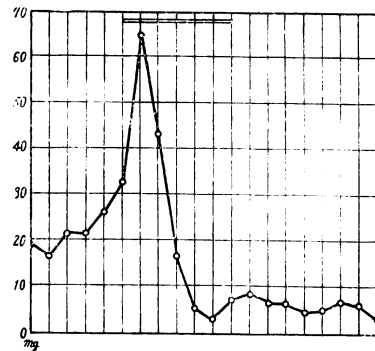


第 3 表

第 3 例 久○マ○ 34 子

検査日	尿量(cc)	比重	反應	「ウロビリ」ン量 (單位 mg)
II 13	1400	1015	「アルカリ」性	19.04
14	1200	1016	..	16.32
15	1000	1018	酸性	21.80
16	1000	1018	..	21.80
17	1200	1016	..	26.16
「ビタミン」B ₁ 投與開始(1日 1mg 皮下)				
18	1200	1016	中性	32.64
19	1500	1016	..	65.25
20	1000	1019	酸性	43.50
21	1200	1018	「アルカリ」性	16.32
22	1000	1018	..	5.44
23	1000	1015	酸性	3.40
24	1400	1014	「アルカリ」性	7.62
「ビタミン」B ₁ 投與中止				
25	1600	1014	「アルカリ」性	8.70
26	1200	1012	..	6.53
27	1200	1016	..	6.53
28	1400	1014	酸性	4.76
III 1	1000	1015	..	5.44
2	1300	1016	..	7.07
3	1200	1014	「アルカリ」性	6.53
4	1000	1012	..	3.40

第 3 圖



本例ニ於テハ「ビタミン」B₁ 投與後「ウロビリ」ン量ノ増量ヲ認メタガ次デ顯著ナル 減量ヲ來シタモノデアル。

第 4 表

第 4 例 吉○梅○ 34 子

検査日	尿量(cc)	比重	反應	「ウロビリ」ン量 (單位 mg)
II 13	1600	1012	酸性	21.76

14	1280	1014	..	27.90	28	1200	1013	酸性	26.16	
15	1600	1014	..	21.76	III	1	650	1016	..	8.84
16	1200	1015	..	16.32	第 4 圖					
17	1300	1013	..	17.68						
「ビタミン」B ₁ 投與開始(1日 1mg 皮下)										
18	1400	1016	酸性	19.04						
19	1600	1013	..	8.70						
20	1100	1016	..	5.98						
21	1300	1016	中性	7.072						
22	800	1019	酸性	2.72						
「ビタミン」B ₁ 投與中止										
23	1200	1013	酸性	6.53						
24	1600	1011	..	10.88						
25	1250	1014	..	27.25						
26	1000	1014	「アルカリ」性	6.80						
27	1100	1012	酸性	11.99						

第四章 考察

「ビタミン」B₁ノ投與ニヨリ尿中「ウロピリン」量ノ著明ニ減少スルコトヲ證明シタ。

Bickelノ研究以來「ビタミン」Bガ糖ノ燃焼ニ關ハルコトハ早クヨリ知ラレタ所デアアルガ、近時 Lohmann ヲヨツテ「ビタミン」B₁焦性磷酸ハ糖代謝ニ重要デアアル Co-Carboxylase ノノモノデアアル事ガ唱ヘラレルニ至ツテ B₁ガ糖代謝上ニ持ツ意義ガ明カトナツタ。而シテ「ビタミン」B₁ノ投與ニヨリ肝臟糖原質ノ増加、血糖ノ下降、又葡萄糖負荷後ノ過血糖ノ抑制等ガ臨牀上證明セラレ、「ビタミン」B₁ガ肝臟機能ヲ良好ナラシムル事ハ想像セラレル所デアアルガ、本實驗ハ明カニ結核罹患ニ於ケル肝臟機能ノ變

調ヲ調整スル事ヲ示シテ居ル。即チ曩ニ擧ゲタ B-複合體ノ作用ノ一部ハ B₁ノ作用ニヨルモノトスキデアアルガ、然シ他方 B₂ハ組織ノ酸化還元ニ關與スルモノデアアルカラ、之モ亦肝臟機能ニ對シテ一定ノ關係ヲ有スルモノナル事ハ恐ラク疑ナイ。從テ實際ニハ「ビタミン」B₁ト B₂トノ協同作用ニヨル一層ノ效果ヲ期待スルモノデアアルガコノ點ニ就テノ解明ハ今後ノ研究ニ俟ツ可キデアアル。

更ニ又「ビタミン」Cトノ協同作用ニ就テモ多數ノ實驗ガアル故、如斯酸化還元系ニ關シテモ忽ニ出來ナイ。

第五章 結論

「ビタミン」B₁ハ結核患者尿中「ウロピリン」量ヲ減少セシム。

擧筆ニ臨ミ不斷ノ御鞭撻ト本稿ノ御校閲ヲ賜ハ

リシ院長太繩博士及ビ御指導御校閲ヲ賜ハリシ渡邊博士ニ謝意ヲ表ス。

尙御多忙中ニモ不拘本稿御校閲ノ榮ヲ賜ハリシ大阪帝大市原助教授ニ萬腔ノ感謝ヲ捧グ。

主要ナル文献

1) 藤野, 結核. 第 15 卷, 6 號. (昭和 12 年). 2)
 鈴木, 營養化學. (岩波書店)(昭和 10 年). 3)
 Tislowitz, Kl. Wschr. 16Jg. Nr. 7(1937). 4)

Abderhalden, Dtsch. med. Wschr. 63Jg. Nr. 30, (1937). 5) 佐々木, 社會醫學雜誌(昭和 5 年).
 6) Lohmann, Naturw. 25, 26(1936).